



(愛称は「ちがさき丸ごと博物館」)

茅ヶ崎のお正月 絵馬に願いを

新年あけましておめでとうございます。

1年の無事と幸福を祈る初詣に出かけ、願いごとを絵馬に書くのもお正月の風物詩ですね。今回の季刊誌はそんな茅ヶ崎の「絵馬」について特集します。

たとえば、菱沼八王子神社では、毎年、お正月に「大絵馬」を飾っています。

そこには、地域の方々の「地元」を思う願いが込められていました（2ページに続きます）。



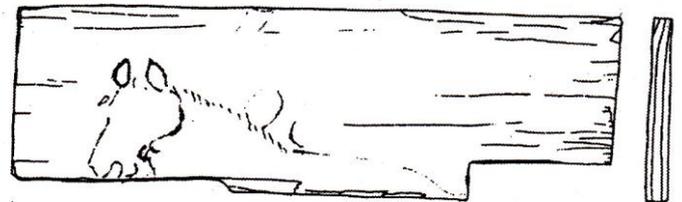
▲平成24年・辰年の大絵馬。

コラム

発見された

茅ヶ崎市最古の絵馬

～絵馬のはじまり～



平成20年度の冬、河川改修のために下寺尾の西端を流れる小出川の川岸を発掘調査した際、奈良時代から平安時代（8～12世紀）の土器群と一緒に、馬を描いた板が発見されました。板の大きさは12.5×3.8 cm、厚さは5mmで、墨書きによる馬の上半身の絵が認められました。板が欠損しているため下半身がわからず残念ですが、馬には人が乗っていた可能性もうかがえます。この調査では、祭祀（さいし・祈りの儀式など）に使われた遺物類も発見されていることから、この絵馬も神様への供え物であった可能性が考えられ、まさに絵馬のはじまりを示す貴重な資料ということができます。

出土地点は、注目される高座郡衙（郡役所）や七堂伽藍（寺院）のために造られた小出川の津（船着き場）の跡と考えられ、祭祀の場でもあったと推測されます。（第20回茅ヶ崎市遺跡調査発表会要旨より）

新年恒例 菱沼八王子神社の大絵馬奉納



▲「菱神会」の皆さん。取材をさせていただき、とても親切にお話をしてくださいました。

平成22年の寅年から奉納がはじまった大絵馬。毎年、お正月の時期に、干支と寿ぎの文字を描いて、神社に向かって鳥居の右側に奉納され、地域の方々を中心に親しまれています。

大絵馬をつくられているのは、神社の氏子さんで御輿保存会の会員を中心に約30年前に創立された菱神会(りょうじんかい)の皆さん。

大絵馬づくりの取り組みについて、会の皆さんにお話を伺いました。

■大絵馬の大きさ

人よりも大きなこの絵馬、サイズはタテ約3メートル・ヨコ4メートル、重さは100kg程度で、4人くらいでないと持てないほど。

毎年変わるデザインを楽しみに来られる方、はじめて観てびっくりされる方問わず、お正月には、大絵馬と一緒に写真を撮る多くの参拝者の姿がみられます。

「百聞は一見にしかず」ですので、その大きさを知るには、訪れて実物をご覧になるのがいちばん！

毎年、小正月の頃まで観ることができるようにしているそうです。



▲平成23年・卯年の大絵馬。

絵馬いろいろ

茅ヶ崎市内の神社の絵馬を観てまわると、いろいろなデザインがあることに気づきます。皆さんも探してみてもいいでしょうか。

▼本村八王子神社



▼御霊神社



▲鶴嶺八幡宮（下段3枚）

■大絵馬のつくりかた

大絵馬の板（台）は保管していて、毎年12月頃から、昨年の絵馬を上から白く塗り変えます。新しいデザインと文章は担当者が決めて、みんなで協力して製作します。あまりに大きいので、描き方も独特。板の上にプロジェクターで文字や絵柄を投影して、鉛筆で下書きをしてから製作していくそうです。



平成25年・巳年の大絵馬は12月中に作業をして、12月30日から境内に飾る予定です▲



▲取材後、境内をご案内していただきました。

■大絵馬をつくるようになったきっかけ

初詣の参拝客が多くなった昨今、境内をイルミネーションで装飾するなど、もっと神社としてお客様に喜んでいただけるようなことを提案してきたそうです。

そんな中、小さい絵馬をお神輿の古くなった担ぎ棒を利用してつくっていたのですが、資材の担ぎ棒がなくなったことが大絵馬づくりのきっかけとなりました。

お神輿の担ぎ棒からつくっていた絵馬は、10年前くらいに毎年200枚程度つくっていたそうです。こちらも非常に興味深い取り組みですね。

■地域の人たちをつなぐ場として…

菱神会の皆さんや氏子さんたち、そして地域の方々は協力して、大絵馬だけでなく、どんど焼きやひなまつり、お花見会やお月見会など、年間を通して神社で行事をされているそうです。子どもも大人も楽しめて、神社が地域の人たちをつなぐ場となっています。

菱沼八王子神社の都市資源といえば、境内の小高い丘に位置し地域の鎮守の目印となっている大きなタブノキがあります。

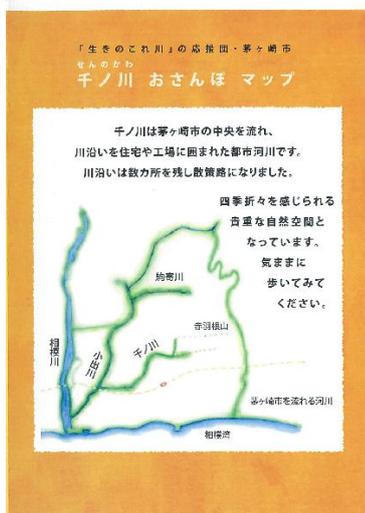
今回取材をさせていただき、菱沼八王子神社に集う、地元を愛し、熱心に活動をされている人たちの思いもまた、茅ヶ崎の素晴らしい都市資源だと強く感じました。



景観重要樹木指定されている菱沼八王子神社のタブノキ▲

トピックス

千ノ川 おさんぽマップ



四季折々の自然を実感することができる千ノ川は、茅ヶ崎市の市街地を流れる川で、街中にいながら自然を感じられる貴重な場所です。

千ノ川を拠点に水循環・水環境をテーマに、クリーンキャンペーンなどの活動している市民団体「生きのこれ川の応援団」と茅ヶ崎市の協働推進事業で「千ノ川おさんぽマップ」を制作しています。

上流・下流それぞれ1時間程度で歩ける散歩コースの紹介や、千ノ川でよく見られる生き物たちの写真が掲載され、自然と人が共生できる川にするため、より多くの市民の方に関心を寄せてもらいたいという思いが込められています。

1月中旬に2,000部発行予定です。配布場所は、下水道河川建設課窓口、各公民館、サポートセンターを予定しています。

お問い合わせは、茅ヶ崎市下水道河川建設課までどうぞ（Tel 0467-82-1111）。



すでに多くの皆さんに「ふるさと茅ヶ崎」を再発見していただいておりますが、平成24年11月22日から25年1月27日の67日間、「受け継がれてきた郷土芸能」「古代からの遺跡」「地元愛にあふれた商店街」「季節ならではの景観」など、身近だからこそ見落としてしまいがちな「まちの宝もの」に光をあて、市民のみなさんにあらためて茅ヶ崎を歩いていただくキャンペーン事業、企画展『つながるちがさき』を開催しています。1月もまち歩きや都市資源の展示会などさまざまな企画があります。ぜひこの機会に、茅ヶ崎市全域を屋根も壁もないエコミュージアムとして鑑賞してください。詳しくは公式ホームページをご覧ください。
http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/bunka_rekishi/hakubutsukan/

- ・**まち歩き 高砂緑地から海へ 「南湖周辺の文化人を訪ねて」** 参加者募集中
 実施日 1月12日（土）9時30分～12時頃 募集人員：20名（事前申込制・先着順）
 申込先：茅ヶ崎市教育委員会教育推進部社会教育課 0467-82-1111
 【コース（予定）】
 高砂緑地～国木田独歩碑～茅ヶ崎館～速水御舟旧宅～小山敬三旧宅～国木田独歩旧宅～南湖院跡～平塚らいてう旧宅～萬鉄五郎旧宅～山田耕筰旧宅～高砂緑地などをガイドします。
- ・**えぼし岩周遊船 乗船ガイド** 茅ヶ崎市観光協会協働事業
 2月2日実施予定の「えぼし岩周遊船」の乗船ガイドを今年も当会にて実施します。
- ・**まち歩き 「海のまち茅ヶ崎ウォーキング」** 平成24年11月7日実施
 埼玉県春日部ふれあい大学卒業生の皆さん10名のガイドを実施しました。
 お天気に恵まれ、高砂緑地～サザンC～南湖院など茅ヶ崎の歴史や海の景色・潮風を十分に堪能していただき大変好評でした。

ちがさき丸ごとふるさと発見博物館って何？

茅ヶ崎市の全域を屋根も壁もない博物館と見立てて、文化、歴史、自然、産業、商業、公共施設、人材など、このまちらしさをもついろいろな事柄を幅広く選び出し、これらを都市資源と呼ぶことにしました。これらの都市資源を調査・研究し、それぞれが持っている意味や魅力を広く市民に周知する一方、それぞれを関連付けて散策や各種イベントなどで活用を図ることにより、本市を改めて知り、本市を愛する心を育み、ひいてはまち全体の活性化を図ろうとするものです。そして、都市資源は地域のかげがえのない宝物として、地域により保護され育てられていくことになります。住民が、自分たちの地域の未来のために、自分たちの考えと力で運営していく姿勢を特に重要視しています。

編集後記

お正月にふさわしい絵馬のあれこれを、地元住民の足と目と耳で集めてみました。予想以上に興味深く心あたたまる収穫の数々、本年も良き1年になりそうです。さらに楽しい内容をお届けします。